

COLUMN | AI活用

RPAとAIを「つなぐ」だけで、 自動化の射程が変わる

ハイパーオートメーションを中小企業が始める3つの切り口

2026年9月15日

株式会社DnD | Distill n Develop

<https://dnd-inc.jp/>

この資料の要点

- ・ ハイパーオートメーションとは、RPA・AI・ノーコードツール・プロセスマイニングを組み合わせ「自動化できる業務を徹底的に自動化する」考え方のこと。
- ・ 市場は2026年の約1.9兆円規模から2031年には約4.5兆円規模に成長が見込まれており、6割近くの企業がAIエージェントを業務に取り入れ始めている。
- ・ 中小企業が始めやすい切り口は3つ：①既存RPAにAI判断を1ステップ足す、②ノーコードツールとAIエージェントを連携する、③業務ログをAIに読ませてボトルネックを見つける。

「ハイパーオートメーション」とは何か

ハイパーオートメーション（Hyperautomation）とは、RPA・AI・ノーコードツール・プロセスマイニングなど複数の技術を組み合わせ、「自動化できる業務をできる限り幅広く、継続的に自動化する」という考え方・設計思想のことです。調査会社のGartnerが2020年頃から提唱し始め、2026年現在では企業のDX戦略における重要な指針として広く認知されています。

RPAは「決まった画面操作を機械的に繰り返す単一ツール」であるのに対し、ハイパーオートメーションは「RPAをはじめ複数の自動化技術を組み合わせた仕組み全体」を指します。

構成する主な要素

- ・ **RPA**：APIなしの古いシステムや定型画面操作を自動化するソフトウェアロボット
- ・ **生成AI・AIエージェント**：メール判定・文章要約・例外処理の判断などを担う
- ・ **ノーコードワークフローツール**：Make・n8n・Power Automateなど、複数ツールをAPIでつなぐ
- ・ **プロセスマイニング**：業務ログを分析してボトルネック・自動化すべき箇所を発見する技術

なぜ今注目されているのか

市場規模は2026年時点で約1.9兆円（\$18.6B）とされており、2031年には約4.5兆円（\$45.2B）規模への成長が見込まれています（複数調査会社の推計）。背景には3つの変化があります。

- ・ **AIエージェントの実用化加速**：2026年時点で57%超の企業がAIエージェントを業務に本番導入済みと回答。RPA×AI設計の実装ハードルが大幅に低下。
- ・ **日本の補助金制度がAI活用を明示的に後押し**：2026年改定の「デジタル化・AI導入補助金」でAI機能ツールが補助対象として明示。

- ・ **労働力不足**：中小企業では「同じ人数でこなせる業務量を増やす」必要性から、ハイパーオートメーションへの需要が高まっている。

中小企業が始めやすい3つの切り口

切り口① 既存RPAにAI判断を1ステップ足す

すでにRPAツールを導入している場合、「RPAが苦手な例外処理の部分にAIを追加する」方法が最もスムーズです。フォーマットが統一されていない請求書をAI-OCRで読み取りRPAに渡すなど、「ボタンタッチ」を設計するだけでRPAの適用範囲が大幅に広がります。

対象：すでにRPAを導入しているが「例外が多すぎて使いづらい」会社。

切り口② ノーコードツールとAIエージェントを連携する

RPAがない場合は、n8n・Make・Power AutomateなどのノーコードワークフローツールにAIエージェントのステップを組み込む方法が現実的です。「問い合わせメール受信→AIが分類・回答案生成→担当者確認→自動返信→履歴記録」というフローを、コードなしで組み上げることができます。

対象：クラウドツール中心の環境で「ツール間の転記・連絡作業」が残っている会社。

切り口③ 業務ログをAIに読ませてボトルネックを見つける

「どの業務を自動化すべきか分からない」場合は、手元にある業務ログ（Excelの作業記録・Slackの対応履歴）をAIに読み込ませてボトルネックを分析するところから始められます。Microsoft 365環境ではPower Automate Process Advisorも活用できます。

対象：「何から自動化すればいいか分からない」「効果が見えにくい」状態の会社。

スタート前に確認すべき2点

- ・ **データの一元化が前提**：必要なデータが「Excel・紙・メール・担当者の記憶」に分散している状態では、ツールをつなぎようがありません。まず自動化したい業務に関わるデータを1か所で管理できる状態を整えることが先決です。
- ・ **「段階的な自動化」から始める**：最初から100%を自動化しようとせず、まず70～80%の定型部分だけを自動化し、残りは人が対応する設計から始めましょう。ハイパーオートメーションは継続的に改善を重ねるサイクルです。

株式会社DnDでは、RPA×AIの自動化設計から運用まで中小企業向けにご支援しています。

「何から手をつければいいのか」という段階からご相談ください。

<https://dnd-inc.jp/contact.html>

本資料は一般的な情報提供を目的としており、特定ツール・サービスの導入を保証するものではありません。補助金の対象・条件は変更される場合があります。最新情報は公式サイトをご確認ください。